

朗唱劇『屁こき嫁の冒険』

登場人物

隣の婆さま 屁こき嫁が嫁いだ家の隣人、好奇心旺盛

婆さま 屁こき嫁の姑

息子 屁こき嫁の夫

嫁 山の向こうの村から嫁いできた、才色兼ね備えた嫁、屁がハリケーン並みの勢い

侍Ⅰ～Ⅴ 殿さまに仕える武士たち、腕に覚えがあるが、岩をどかせない

殿さま ある城の主、屁こき嫁を側室に迎えるが、天守閣ごと吹き飛ばされる

岩 大名行列の邪魔になった岩、性別は「女」らしい

子ども 父母兄妹を山姥に喰われ、人釣りの餌にされた童

山姥 屁こき嫁をさらうも、屁こき相撲で敗れる

カラスの勘吉 屁こき横綱決定戦の呼び出し

狐の木村コン之助 屁こき横綱決定戦の行司

クロス 語りと歌、大名行列など

〈うたⅠ〉 へ、へ、屁こけば 城飛ぶ 屋根が飛ぶ

は、は、腹いた 顔色真っ青 のたうちまわる嫁

ふ、ふ、古屋の 漏りより おそろし

嫁こが屁ひれば 岩こもどければ 山姥かなわぬ

クロス 昔々あるところに、婆さまと息子が二人で暮らしておりました。あるとき山の向こうの村か

ら嫁をもらうことになりました

隣の婆さま このたびは息子どのに嫁が来たそうなの

婆さま おかげさまで、とてもよく働く嫁でしたな

隣の婆さま それはそれは

婆さま 朝あ暗れうちからいつちばん早く起きて掃除するは、まかないするわ…

隣の婆さま ほう

婆さま 夜あ夜でみなが寝静まってもろうそくの灯りで針仕事する、そらー見事な嫁でな

(息子はいる)

息子 おいおい婆さま、何をまたべらべらべらしゃべくってから

婆さま いいでねえか、人の悪い噂してるわけでもねえし…

息子 こういうことはあまり云いふらさねで、胸に大事にしまつとくもんだぞ

隣の婆さま ハッハッハッ…そんだなそんだな、しかしいい娘であることにまちがいはないだろが

息子 はい、それがほんとに働きもんで、こうしてくれと思うだけで察して動く、痒いところにや

手が届く、一を聞いて十を知る、それに気立てもいい、優しくて思いやりがあつて情に深く、その上とびきりのべっぴんときてる…

隣の婆さま 出てくる出てくる

婆さま おめえこそ、少しも胸にしまつてねえだろが

